

景況 レポート

3月号

情報連絡員 80名

製造業のDI値は 4カ月ぶりに上昇

～先行き不透明な状況は変わらず～

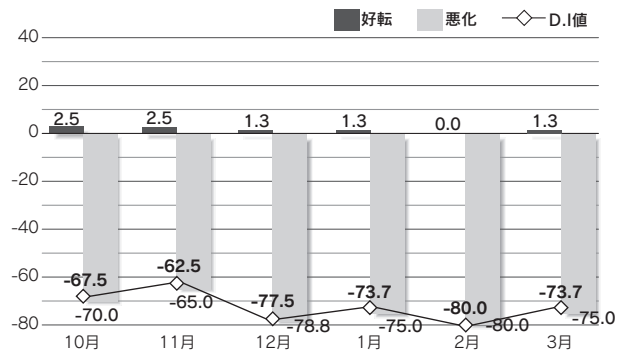
景気概況

3月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが1.3%(前月調査0.0%)、「悪化」が75.0%(同80.0%)で、業界全体のDI値は-73.7となり、前月調査と比較し6.3ポイント改善した。

内訳として、製造業全体のDI値は-75.0で前月調査(-84.4)に比べて9.4ポイントと、4カ月ぶりに前月を上回った。また、非製造業全体としてのDI値は-72.9で前月調査(-77.1)に比べ4.2ポイント上回った。

(回答数:80名 回答率:100%)

業界全体好転悪化割合 [前年比/同月比]



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							
非製造業							

業界の声

味噌醤油製造	2月分の出荷量は、前年同月比で味噌が76.2%、醤油が82.3%と大きな落ち込みとなった。
乳製品	消費が減退している中、3月から生産者乳価の引き上げに連動した小売価格の値上げがあったことから、乳製品に対する消費者の目が厳しくなっており、需要の更なる停滞を招いている。
清酒製造	2月分の清酒出荷量は1,755kℓで、前年同月比94.3%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で95.5%、純米酒が89.5%、本醸造酒が88.8%、レギュラー酒が94.4%という状況。
繊維・同製品	カットソー関係は、受注数量は充足しているが手間の掛かる仕事が多く、収益の改善までには至っていない。布帛(ふはく)は春・夏物の最盛期であるが、前年同月比では受注数量が減少している。小口ロットであるため生産性の低下を招いている。
木材・木製品	住宅着工件数の減少に伴い、出荷数量・販売価格ともに前年を下回った。販売価格は、下げ止まらない外材製品価格につられて下落しており、苦しい製造原価が求められている。
窯業・土石	出荷数量は前年同月比60%台であり、前月よりも落ち込みが激しくなっている。4月からは原材料価格の値上げも予想され、各社とも更に厳しい状況を迎えることとなる。
自動車販売	3月の新車販売台数は、登録自動車が2,870台(前年同月比68.7%)、軽自動車が2,867台(同86.3%)で、合計5,737台(同76.5%)で依然低調に推移している。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり109円で前月比1円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり95円で前月比2円の引き下げとなっている。灯油(配達込み)は、18ℓ宅配で1,122円で98円の引き下げとなった。ガソリンの仕切価格は小幅であるが上昇している。軽油・灯油については下げ基調にあり、マージンが減少している。
商店街	消費者の買い控えが続いており、特に高齢者の買い控えが感じられる。歓送迎会の時期であるにもかかわらず居酒屋の売上高が前年比20%減少、酒類小売店は14%の減少になるなど厳しい状況にある。 [秋田市] 売上の減少は依然続いており、業況は悪化している。4月に商店街独自で発行するプレミアム付商品券の効果を期待したい。[大館市]
一般建築	公共工事の削減に続き、民間工事も減少している。資金繰りも厳しく、銀行の借入が困難になったため各社は政府系金融機関の利用により凌いでいる。
トラック	米関係や引越需要で前月に比べ若干動きがあったが、荷動きの低迷が続いている。大幅な売上減少となっており、徹底した支出管理を行い収益確保に努めている。